

## House in Koganei (2004 ~ 2005)

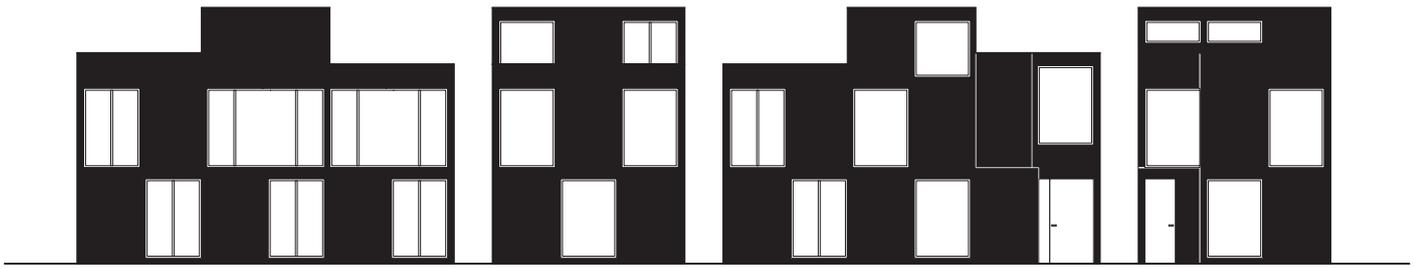
[小金井の家] ハマナカデザインスタジオ 一級建築士事務所



典型的な都市郊外の旗竿型敷地。住宅展示場の様に展開される周囲の分譲住宅地の風景にどのように対応できるだろうか。ここでは周りに対して閉じたプログラムを組み立てるより、周囲の環境との折り合いの付け方をテーマとした。木造の耐震壁を市松状に配し、カードボードストラクチャーともいべきシェルターを実現している。



「景」の断片化、マスキング、およびフレーミングを意図した市松状の開口部



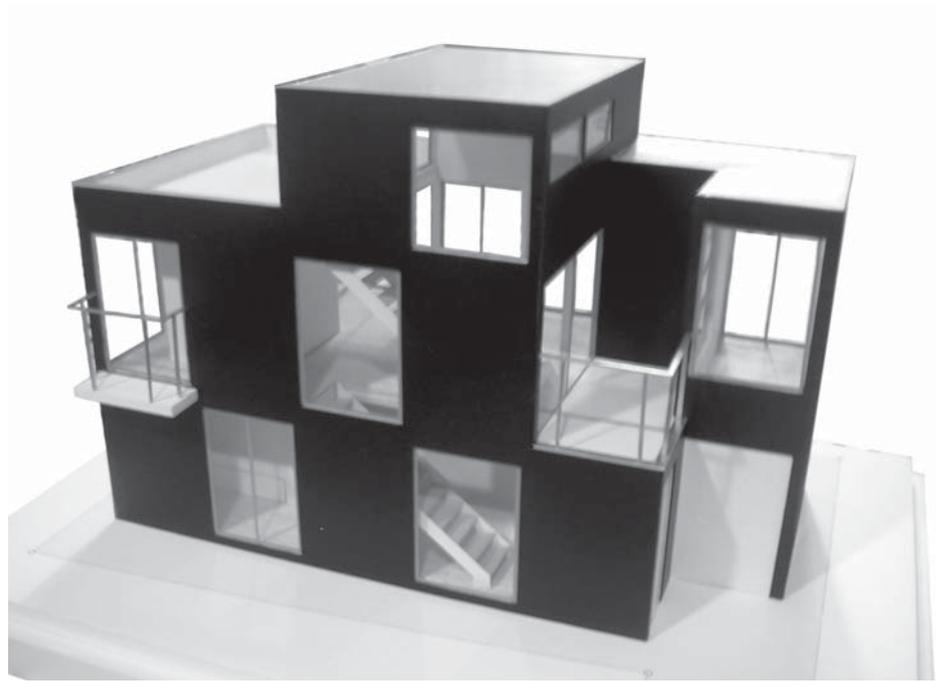
南東側立面図

北東側立面図

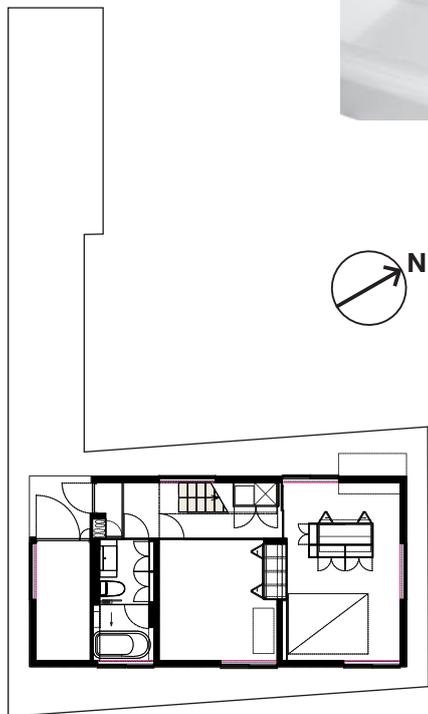
北西側立面図

南西側立面図

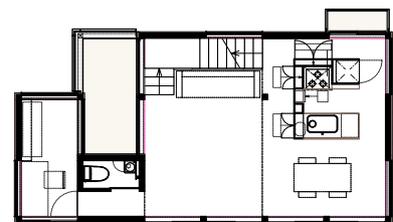
S: 1/200



Model Photo

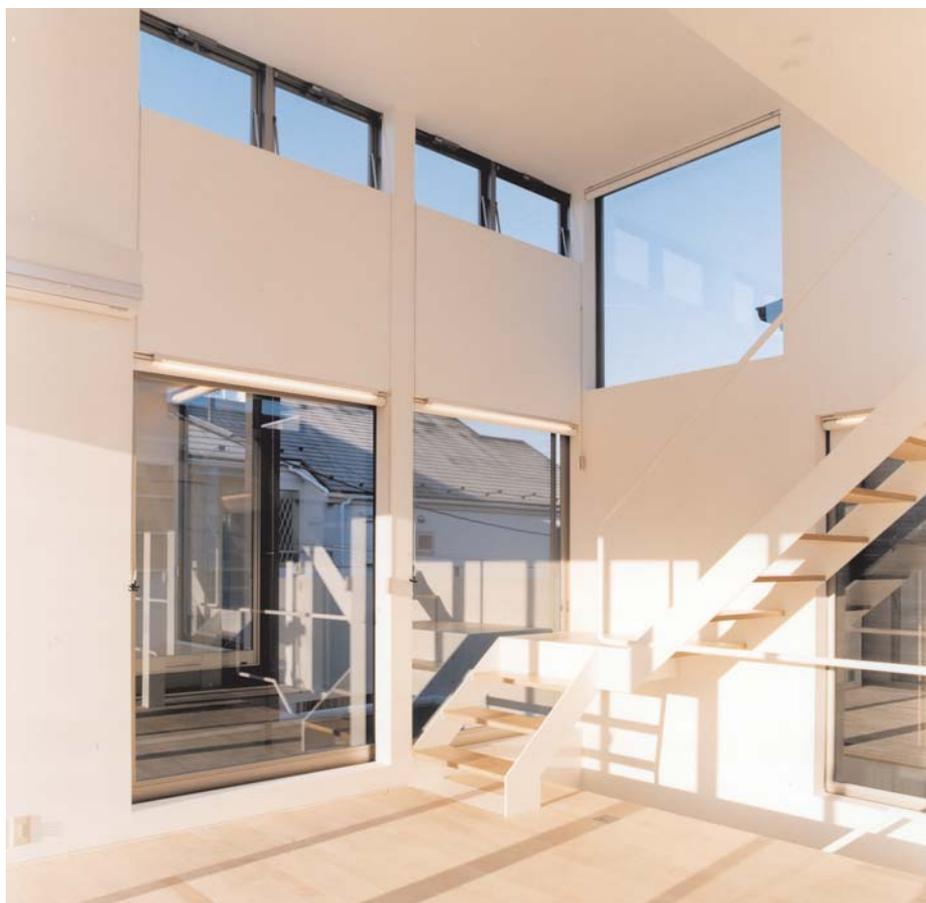


配置図および一階平面図



二階平面図

S: 1/200



## 「景」の断片化、マスキング、あるいはフレーミング

開口部のデザインは構造システムとの折り合いの結果、ランダムな市松模様ともいうところに落ち着いていた。開口部の検討をはじめるとあたって考えたことは「窓」を単なる壁にうがたれた穴という存在から転化させられないか、ということであったと思う。となると、必然的に床から天井までをサッシとする、という当たり前の取り組みになってしまうのだが、ここで開口のパターンを市松もどきとしたことには次のような試みが意図されている。

とかく、都市部の込み入った敷地の住宅は周囲に対して閉じながら、内部で開放的な空間を獲得しよう、という意識に向かいがちである。確かに一般的に都市部の近景は全体としてはとても見えていられたものではないかもしれない。しかし、その近景を断片化することによって、そこに新たな「景」を発見することができないだろうか。

つまり、この住宅で開口部が担っているのは、「景」を断片化させることによって、しかも連続していることを暗示させる「景」を獲得することによって単なる壁にうがたれた窓であることから離れ、周囲の環境との関わりを再考する装置として機能することである。これは内部から外部を眺めたときだけでなく、その逆の場合にもあてはまることはいうまでもない。

「景」の断片化を考える上で「市松」と同様に組み組んだのが、「景」の「トリミング」、あるいは「フレーミング」だったように思う。いささか唐突にすぎないかもしれないが、例えばジェームズ・タレルによるある種のインスタレーションは環境の精緻なトリミング、もしくはマスキング（フレーミングといってもいいだろう）である、とは考えられないだろうか。彼は、限定された環境下で、否応無しに感性を研ぎすますことになる体験者たちに、完璧なフレームを提供することで、肥大化された知覚に最大限のインパクトを与えようとしているのかもしれない。そこでは、限定された環境づくりと「景」のフレーミングが同時に行われていると見ていいと思う。現場に通ううち、「小金井の家」におけるハイサイドライトから飛行機雲を見たことは非常に印象深い「景」の一つである。単なる飛行機雲が存在する空模様が、フレームを与えられることで別の見え方をしてくるから不思議である。この北へ向いた高窓からはいまのところ空の景色しか眺めるものはない。晴天、雨天、曇天に関わらず文字通り、「空模様」そのままである。その遠近感を欠いた「景」がこの住宅の主室において特異な存在感を放っているようだ。



### 気積の接続

この住宅ではドラマティックな大空間を獲得することは第一義ではなかったように思う。それよりも高さ、幅、奥行きのみならずさまざまなバリエーションをもった空間を併置することが意図されている。人が生活を営む上で必要と思われるボリュームがそれぞれ何らかの空間装置を介してつながっているイメージといえいいだろうか。

あるいはある大きさの気積をもった空間を絞り込み、小さな房を作り出すようにしながらそれぞれの気積を定義し、同時に動線を設定することにもなっている。

### 緩衝帯の仕掛け

この住宅では開口部のスクリーンとして遮光性のロールスクリーンが採用されているが、このスクリーンをおろした状況も想像以上に効果的なものである。スクリーンがカーテンやブラインドのような「もの」的な存在以上にテクスチャーとして感じられるからである。さらに遮光性をうたいながらも、外部の状況を反映するようなありようはエーテル状の環境光を作り出しているようでもある。

また、室内の照明器具はすべて開口部上枠に集められ、夜間などは発光体としての役割も担っている。





#### ■計画概要

名称：小金井の家

所在地：東京都小金井市

主用途：専用住宅

家族構成：夫婦

地域・地区：第一種低層住居専用地域、第一種高度地区

全面道路：西側5m（42条一項5号道路）

駐車台数：1台

敷地面積：102.90m<sup>2</sup>

建築面積：42.44m<sup>2</sup>

延べ面積：75.49m<sup>2</sup>

構造・階数：木造・地上2階

基礎：ベタ基礎

最高高さ：6.9m

階高・天井高：2,100mm・2,700mm、3,900mm

設計・監理：ハマナカデザインスタジオ（濱中直樹）

設計協力：フェムケ・ベルスマ、瀬田憲男（Living Type）

構造設計：大賀建築構造設計事務所

施工：株式会社滝新

設計期間：2004年3月～2004年9月

施工期間：2004年10月～2005年2月

特記以外、写真：片岡陽太

